



12月5日(水)に、旭小学校3年生が、ワカメの種差しを体験しました。

ゲストティーチャーは、上宮田漁協の吉田貴広さんと、吉田利之さんでした。

最初に、ワカメの養殖について、説明していただいた後、実際に子どもたちが一人ずつ、ロープにワカメの種を差していきます。みんな真剣な表情で取り組んでいました。

その後、質問コーナーになり、児童の質問により、ロープを使う理由(ワカメを適度な深さに垂らすことで、成長が早まる、種も流されない、収穫がしやすいなど)もよくわかりました。

終了後校長室で、ワカメのめかぶから種ができるまでの苦労を聞くこともできました。微妙で、コツがいる作業が必要で、まめに対応する必要があることが分かりました。

旭小の水槽のトチザメとサナダムズヒキガニも元気にくらしていました。



三浦地区保護司会が発行した「社会を明るくする運動 三浦地区作文集」より。初声小学校6年生の作文です。

「死んだコアホウドリのヒナ3羽の胃から回収された86個のごみ、・・・傷ついているのが自分だったら、助けて、と思っているでしょう。・・・最終的には、いろんな人たちが海のごみ拾いをやってほしい・・・」

名向小学校6年生の作文です。

「どうして、砂浜にゴミを捨てる人がいるのだろう。・・・ゴミを増やすのは、人を暗い思いにするだけだと思います。私にできることは、少しでも砂浜のゴミを減らすことだと思います」



同じく、名向小学校6年生の作文です。

「汚染された海」というのは、今世界中で問題になっています。・・・カメは、クラゲなどを食べていますが、誰かが海にポイ捨てしたビニール袋をクラゲと間違えて、食べてしまい、死んでしまうこともあります。このように、ポイ捨ては、生物の命を奪ってしまう危ない行為につながるのです」



子どもたちは、海の環境について、真剣に考えています。大人は何ができるでしょうか？

(文章と写真は、直接関係ありません。)

(文責 事務局長 渋谷)

海洋教育に関するお問い合わせは、みうら学・海洋教育研究所 854-9443 まで